

建設現場のICT 大曲工高生が体験

ショベルカー試乗など

情報通信技術（ICT）を活用した工事現場の見学会が、大仙市協和峰吉川の雄物川河川敷で開かれた。大曲工業高校土木・建築科の1、2年生約50人が参加。生徒は市内の建設会社社員から説明を受けながら、ドローンを使った測量や操縦アシスト機能が付いたショベルカーの試乗を体験した。県仙北地域振興局と県仙北建設業協会の主催。

見学会は、若い世代に建設業に関心を持ってもらい、将来の担い手確保につなげようと毎年行っている。今年は、水害対策として秋田振興建設

（同市大曲西根）が川幅を広げる工事を進めている雄物川河川敷で9月16日に実施した。

ショベルカーの試乗では、生徒はのり面を削る作業に挑戦。アームの動きが表示されるモニターを見ながら、慎重にレバーを動かしていた。機器には、設計図通りの高さや角度に自動で動く機能が備わっており、生徒は社員から「経



説明を受けながら
ショベルカーの操
縦を体験する生徒

験が浅い人でも難しい作業ができる。人口減少や高齢化の中で、作業員一人一人の生産性を高められるよう建設機械が進化している」などと説明を受けていた。

古谷豪琉さん（1年）は「重機の操作は難しいイメージがあったけれど、面白かった。建設現場ではさまざまな技術が使われていることが分かった」と話した。（針金友理子）